

函館市地域包括支援センター こん中央

令和2年度（2020年度）活動評価

令和3年度（2021年度）活動計画

中央部第1圏域



— 目 次 —

1. 圏域の現状と課題	・・・	1
2. 重点活動	・・・	5
3. 令和2年度活動評価および令和3年度活動計画		
ア 地域包括支援センターの運営	・・・	7
(ア) 総合相談支援業務	・・・	7
(イ) 権利擁護業務	・・・	13
(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務	・・・	17
(エ) 地域ケア会議推進事業	・・・	23
イ 生活支援体制整備事業	・・・	27
(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務	・・・	27
ウ 認知症総合支援事業	・・・	35

圏域の現状と課題

1. 人口の推計と年齢構成

(人)

	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3	R2.3	R2.9	割合	全市
年少人口	2,168	2,086	2,044	1,954	1,864	1,838	8.2%	9.5%
生産年齢人口	13,375	13,024	12,724	12,382	12,001	11,937	53.0%	54.8%
高齢人口	8,816	8,845	8,857	8,828	8,764	8,732	38.8%	35.7%
(再) 65～74歳	4,247	4,235	4,170	4,104	4,066	4,058	18.0%	17.4%
(再) 75歳以上	4,569	4,610	4,687	4,724	4,698	4,674	20.8%	18.2%

「高齢人口」対「生産年齢人口」の割合は、「1対1.37」である。高齢者を支える担い手が、今後さらに減少することが推察される。

2. 世帯構成 (R2.9)

(世帯)

	世帯数	割合	全市
高齢者単身世帯	4,175	30.0%	24.9%
高齢者複数世帯	1,465	10.5%	12.8%
その他	8,295	59.5%	62.4%

高齢者のみ世帯数は年々減少しているが、割合は全世帯の40.5%を占め増加傾向にある。高齢者は、支援の「受け手」になるだけでなく、自身が「支え手」になり得ることを認識し、住民がお互いに支え合いながら暮らす地域づくりを地域全体で考えることが重要である。

3. 事業対象者・要支援認定者の状況

(人)

	R1.9	R2.9	全市
認定者数	825	804	7,674
認定率	9.4%	9.2%	8.5%
給付実績	572	540	4,723
給付率	69.3%	67.2%	61.5%

4. 介護保険サービス事業所数 (R2.9)

(件)

	事業所数
居宅介護支援等 (※1)	19
地域密着型サービス (※2)	15

※1 居宅介護支援・小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護事業所の件数

※2 地域密着型サービス事業所(小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護を除く)の件数
圏域の18町のうち、15町に居宅介護支援事業所等の開設があり、住民は身近で介護相談等ができる体制にあるが、地域住民に未周知である場合が多い。

5. 地域環境と医療・福祉・教育等機関

①圏域の地域環境

函館市中央部に位置し、東西に函館湾と津軽海峡(大森浜)、圏域中央に亀田川が流れる。海拔2～12Mにあり、勾配はなだらかで比較的平坦な地形である。国道5号線・八幡通り・高砂通り・漁火通り等の主要道路の他、路面電車が通り、交通の便は比較的よい。

函館駅周辺の朝市商店街・ホテル群エリア、金堀町や広野町、日乃出町にある団地群、千代台公園や総合福祉センター等の市内全域の住民が利用する公共施設がある。

②医療機関数

(件)

病院	2	総合病院(一般病床、地域包括ケア病棟、療養病床)
診療所	8	内科(6) 整形外科(1) 皮膚科(1)
歯科	11	

③地域組織

町内会、自治会	町会 (19)、自治会 (1)
民生児童委員協議会	第4、5、8、9方面民生児童委員協議会
老人クラブ	5クラブ

④保育・教育機関数

認定こども園、認可保育所、幼稚園	7園
小学校	4校
中学校	1校
高校	0校
専門学校	1校

⑤公園・公共施設等

公園	17か所	
社会教育関係施設	18施設	総合福祉センター、青年センター、児童館 (3) 図書館 (1) 観覧施設 (3)、競輪場、スポーツ施設 (8)

⑥福祉施設

障がい者福祉施設	34施設	指定就労移行支援事業所(1) 指定就労継続支援事業所B型 (12) 指定生活介護事業所 (3)、指定短期入所事業所(1)、指定共同生活 援助事業所(4)、指定相談支援事業所 (3) 地域活動支援センター(1) 指定児童発達支援事業所(3)、指定放課後等デイサービス事業所 (5) 保育所等訪問支援事業所 (1)
救護施設	1施設	明和園
母子生活支援施設 等	4施設	母子家庭等就業・自立支援センター、高砂母子ホーム無料職業紹介 所、高砂母子ホーム、松陰母子ホーム

6. 高齢者の健康・社会参加等の状況

- ①高齢者総合相談の対応内容は、「介護保険・総合事業」「保健福祉サービス」「住まい」「認知症」等に関するものが多かった。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策のために外出を自粛し、交流の機会が減少、閉じこもり傾向の生活となった高齢者が多かった。そのため、足腰の筋力が低下して転倒したり、うつ傾向やもの忘れが悪化する等、フレイル（虚弱）な状態となったのではないかと考えられる。
- ②圏域の高齢者は全市と比べ、運動器（骨関節、筋肉等）の機能低下や転倒の不安、口腔器（歯、口等）機能の低下（ムセ、口渇等）がある人の割合が多く、また、同圏域の平成28年度の状況と比べ増加している。（函館市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査より）
- ③健康づくり教室（以下「元気サロン」という。）は、新型コロナウイルス感染症の影響により一時はすべての「元気サロン」が活動を休止した。参加者が希望し、感染対策を互いに配慮しながら再開した元気サロンが一定程度ある。一方で感染の不安や会場確保が困難である等の理由から、再開していない元気サロンもある。
- ④地域からの孤立、認知症が悪化し成年後見制度の活用が必要、家族に精神疾患があり介護負担増、経済困窮が要因となった高齢者虐待の発生等、権利擁護相談の対応回数が例年より激増した。

7. 地域の見守り、支え合いについて

- ①民生児童委員（以下「民生委員」という。）、町会、在宅福祉委員等（以下「地域支援者」という。）からの聞き取りから、
 - ・新型コロナウイルス感染症予防のために町会行事やふれあい会食会等を中止したり、高齢者宅への訪問が制限されたことにより、地域の見守り体制が取りづらい状況となった。感染対策を話し合い、様々な工夫をし見守り活動を再開する町会等が一定程度ある。
 - ・地域支援者からの相談件数が0件の町がある。
 - ・地域支援者の不足や高齢化により、地域活動を縮小する傾向にある。
- ②高齢者総合相談の状況から、
 - ・新型コロナウイルス感染症のため遠方に在住する家族が往来規制されたことにより、高齢者に異変があっても気づきづらい状況となった。令和2年3～6月にかけて家族親族からの相談数は減少した。
- ③地域ケア会議や権利擁護相談で対応した高齢者では、認知症を患う人が多い。地域支援者と介護支援専門員（以下「ケアマネジャー」という。）が連携することによって、安心な在宅生活の継続が可能になった高齢者がいる。

8. 日常生活圏域レベルの地域課題の整理に基づく地域課題

優先順位	地域の問題	問題が生じている要因	地域課題
1	支援を要する状態になっても早期に相談へつながらない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会や民生委員が高齢者に会う機会が減り、支援を要する状況であっても気づけない。(新型コロナウイルス感染症の影響) ・ 地域住民や家族、一般企業職員には支援を要する高齢者の相談先が分からない人が多い。または、知っていても相談する意識がない人もいる。 ・ 町会、民生委員、隣近所の住人、別居家族等、地域全体を通じて見守りの目が減っている。 ・ 本人が相談を望まない。 ・ 経済困窮 ・ 重複課題の多い町がある。 	高齢者が立ち寄る先や高齢者宅を訪問する機関が、気になる高齢者がいたときに相談機関につなげること(つぶやき、情報提供、相談等)ができる。
2	高齢者の見守り、支え合いが減っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネジャーが地域とつながる必要性を感じていない。 ・ ケアマネジャーが民生委員との関わり方が分からない。 ・ 民生委員はケアマネジャーや介護サービス事業所が介入すると、「専門家が入ったからもういいね」と見守りから手を引く傾向がある。 ・ ケアマネジャーや民生委員が、一緒に支援をする意識が低い。 ・ 近所づきあいの減少 ・ 隣近所の住民は、高齢者を気にかけているが、見ているだけで心配ごとを誰かに伝えない。 ・ 心配な人、相談につながる人には独居や認知症の人が多く。 	地域支援者とケアマネジャーが協力して高齢者を支援することができる。

優先順位	地域の問題	問題が生じている要因	地域課題
3	虚弱な状態にある高齢者が多い。これからも増えることが予想される。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本チェックリストにおいて「もの忘れ」「歯・口」「運動（転倒）」の該当者が多い。 ・自宅でできる運動を知っていても、1人では取り組まない。 ・高齢者が新型コロナウイルス感染症の影響で外出機会が減少している。 	高齢者が、運動器機能向上のための取り組み方がわかる。
4	虚弱な状態にある高齢者が多い。これからも増えることが予想される。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本チェックリストにおいて「もの忘れ」「歯・口」「運動（転倒）」の該当者が多い。 ・基本チェックリストにおいて「歯・口（以下「口腔器」という。）」項目に、症状がなくても気になるのでチェックした人がいると考えられる。 ・健康づくりに取り組む場合、口腔器機能向上を優先する人は少ない。 ・集い場が減少。集まりづらい。 ・交流の機会が減り、認知機能が低下しやすい状況である。 	高齢者が口腔器の健康づくりが必要であると知ることができる。
5	高齢者の見守り、支え合いが減っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが地域とつながる必要性を感じていない。 ・ケアマネジャーが民生委員との関わり方が分からない。 ・民生委員はケアマネジャーや介護サービス事業所が介入すると、「専門家がいったからもういいね」と見守りから手を引く傾向がある。 ・ケアマネジャーも民生委員も、対象者へ一緒に関わる意識が低い。 ・近所づきあいの減少 ・隣近所の住民は本人を心配しても見ているだけで誰かに伝えない。 ・心配な人、相談につながる人には独居や認知症の人が多い。 	<p>近隣住民が気になる高齢者のことを地域支援者に伝えられるようになる。</p> <p>地域支援者から相談機関につながるが増える。</p>

重点活動

番号	地域課題	各業務での取組
1	高齢者が立ち寄り先や高齢者宅を訪問する機関が、気になる高齢者がいたときに相談機関につながる（つぶやき、情報提供、相談等）ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙やリーフレットの配布をし、地域包括支援センター（以下「センター」という。）の認知度を高める。 気づきの視点（見守り際のポイント）、センターの役割、相談内容（介護保険制度、介護方法、介護予防、心身の健康、認知症、住まい、高齢者福祉サービス、生活援助等）について掲載する。 ・ 出前講座、認知症サポーター養成講座の開催により、センターの役割、早期相談・早期対応の重要性について周知する。講座紹介のリーフレットを作成し、圏域内の民間企業（商業施設、金融機関、宅配サービス業者等）や医療機関・整骨院等へ配布し、開催を提案する。
2	地域支援者とケアマネジャーが協力して高齢者を支援することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 圏域のケアマネジャーを対象に懇談会等を開催する。 「民生委員とケアマネジャーの連携ガイド」を活用する。 ・ 圏域の主任ケアマネジャーと地域支援者が参集する地域ケア会議を開催する。
3	高齢者が、運動器機能向上のための取り組み方がわかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙やリーフレットに、具体的な健康づくりの取り組み方を掲載する。 ・ 元気サロンのリーダー等と話し合い、見守りを兼ねたリーフレット配布を検討する。 ・ 総合相談で関わった人や介護予防支援対象者へリーフレット等を活用し、介護予防セルフマネジメントの推進を図る。 ・ 要支援認定率が高い町に対し、体力づくりや転倒予防に関する出前講座の開催を提案する。
4	高齢者が口腔器の健康づくりが必要であると知ることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報紙やリーフレットに、具体的な「健口づくり」の取り組み方を掲載する。 ・ 元気サロンのリーダー等と話し合い、見守りを兼ねたリーフレット配布を検討する。 ・ 総合相談で関わった人や介護予防支援対象者へリーフレット等を活用し、介護予防セルフマネジメントの推進を図る。 ・ 要支援認定率が高い町に対し、口腔器の健康に関する出前講座の開催を提案する。 ・ 元気サロンで口腔体操を実施する。
5	近隣住民が気になる高齢者のことを地域支援者に伝えられるようになる。 地域支援者から相談機関につながるが増える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出前講座、認知症サポーター養成講座の開催について、町会ごとに提案する。 ・ 広報紙、リーフレット（センターの役割、異変に気づく視点等）を配布する。本人、家族等からの相談が少ない町に対し回覧板を活用する等、多くの住民の目に留まるように工夫する。

令和2年度活動評価および令和3年度活動計画

ア 地域包括支援センターの運営

(ア) 総合相談支援業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第1号

【目的】地域の高齢者等が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるよう、地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者等の心身の状況や生活実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健・医療・福祉サービス、関係機関または制度の利用につなげる等の支援を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価																																										
	実績（実施回数、内容、実施方法等）		活動目標に対する評価																																								
総合相談	1 利用者基本情報作成状況	(件, 人)																																									
		H30.3	R1.12	R2.12																																							
	目標数値	924	890	901																																							
	作成数	予防給付	457	366	255																																						
		(再)新規	82	59	78																																						
		見守り	71	78	89																																						
		(再)新規	65	69	80																																						
		その他	405	347	303																																						
		(再)新規	262	187	147																																						
	合計(A)	933	791	647																																							
(再)新規	409	315	305																																								
高齢者人口(B)	8,828	8,796	8,732																																								
実態把握率 (A/B)	10.6%	9.0%	7.4%																																								
2 総合相談対応状況	①総合相談対応件数																																										
	(件)																																										
	H30.3	R1.12	R2.12																																								
実件数	813	543	592																																								
延件数	1,245	899	988																																								
	②月別相談数と前年比割合																																										
	総合相談 新規相談数 (比較)																																										
	<table border="1"> <caption>総合相談 新規相談数 (比較)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>令和元年度 (件)</th> <th>令和2年度 (件)</th> <th>前年比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月</td><td>42</td><td>32</td><td>76%</td></tr> <tr><td>5月</td><td>45</td><td>48</td><td>107%</td></tr> <tr><td>6月</td><td>58</td><td>40</td><td>69%</td></tr> <tr><td>7月</td><td>50</td><td>42</td><td>82%</td></tr> <tr><td>8月</td><td>48</td><td>43</td><td>93%</td></tr> <tr><td>9月</td><td>48</td><td>58</td><td>121%</td></tr> <tr><td>10月</td><td>48</td><td>55</td><td>113%</td></tr> <tr><td>11月</td><td>52</td><td>75</td><td>144%</td></tr> <tr><td>12月</td><td>38</td><td>43</td><td>113%</td></tr> </tbody> </table>			月	令和元年度 (件)	令和2年度 (件)	前年比 (%)	4月	42	32	76%	5月	45	48	107%	6月	58	40	69%	7月	50	42	82%	8月	48	43	93%	9月	48	58	121%	10月	48	55	113%	11月	52	75	144%	12月	38	43	113%
月	令和元年度 (件)	令和2年度 (件)	前年比 (%)																																								
4月	42	32	76%																																								
5月	45	48	107%																																								
6月	58	40	69%																																								
7月	50	42	82%																																								
8月	48	43	93%																																								
9月	48	58	121%																																								
10月	48	55	113%																																								
11月	52	75	144%																																								
12月	38	43	113%																																								
	<p>【活動目標】 地域（民生委員、町会等）や住民（本人、家族、知人、近隣等）の相談が増える。</p> <p>【評価】 ・相談数は前年比約110%と増加している。 ・月別では、令和2年4～8月は69～93%に減少した。新型コロナウイルス感染症による外出自粛・地域の見守り体制の脆弱化・遠方家族の往来規制等が影響し、支援の必要な状況に気づくことが困難な状況にあったのではないかと考えられる。 ・令和2年9月以降は113～144%に増加した。特に、遠方家族やケアマネジャー、医療関係者からの相談が増えた。持病・認知症状の悪化、フレイル、安否確認ができない等、新型コロナウイルス感染症が及ぼす高齢者への影響について意識し、何らかの方法で関わり、状況を見守ったからではないかと考えられる。 ・「健康」「認知症」「住まい」「権利擁護」に関する相談数が例年と比べ、顕著に増加している。センターの機能周知が図られていることが評価できる。 ・令和元年度まで相談のなかった町からの相談もあり、令和2年度は圏域内全町から相談があった。</p>																																										



令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
<p>高齢者に関わる機関、施設等からの相談が増える。</p> <p>地域支援者や近隣住民等からの相談が増える。 (近隣住民等が、生活に困りごとをかかえる高齢者に気づき、地域支援者へ伝えることが増える)</p>	<p>1 高齢者の実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話、来所、訪問等により高齢者等の総合相談に対応する。訪問による実態把握を基本とする。 (相談に至った経過を確認し、地域支援者や近隣、知人等の気づきや誰かへのつぶやき等の状況について把握する。) 対象者の介護予防の観点から課題がある場合、相談として捉え、セルフマネジメントを意識した支援につなげる。 集合住宅、高齢者専用住宅等の体制や入居者状況等の情報収集をし、見守りや地域交流、支え合い等に関する地域課題の検討につなげる。 見守りネットワーク事業の訪問による実態把握を行う。 <p>2 高齢者等の総合相談</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合相談窓口（ワンストップサービス）として、電話、来所、訪問等により相談内容を把握する。 相談内容は、センター内で共有し、緊急性の判断、支援の方向性、役割分担、関係機関との連携等を協議する。 365日24時間体制で対応する。 休日、時間外に関しては転送電話等で相談を受け、適宜対応する。 来所相談に随時対応できるように、営業時間内は1人以上の相談員を配置する。 民生児童委員協議会（以下「民児協」という。）定例会、町会行事、懇談会、出前講座、元気サロン等の場面で随時相談受付し対応する。 相談者の属性やセンターへの相談に至る経過を確認し、センターの周知状況について把握する。 総合相談状況、対応等についてデータ分析し、地域の特性や社会資源等の把握、地域課題の発見等につなげる。 <p>3 総合相談支援業務に関する広報・啓発</p> <p>① 広報紙・リーフレットの発行、配布（年3回発行）</p> <p>1) 広報紙の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者の見守り（支援の必要な高齢者に気づく視点） センターの機能、役割 高齢者総合相談について (介護保険制度、介護方法、介護予防、心身の健康、認知症、住まい、高齢者福祉サービス、生活援助等) 認知症の理解と援助（認知症ケアパスを活用） 健康、健口づくり活動の取り組み方 <p>2) 広報紙等の配布方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が立ち寄る先や高齢者宅を訪問する機関に設置 (町会館、民児協、医療機関、薬局、公共施設、金融機関、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、個人商店等) 町会回覧 タウン紙等に記事記載、折り込み 元気サロンのリーダー等と話し合い、見守りを兼ねたリーフレット配布を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者基本情報作成数と目標数値に対する達成率（実、延、新規） 実態把握率 相談対応件数（実、町別、年月別） 相談形態内訳 相談者の状況、続柄内訳 相談内容内訳 相談経路内訳 住民に対する広報・啓発回数 広報紙の発行回数 パンフレット等の配布回数 出前講座、講師派遣回数 認知症サポーター養成講座、出前講座の回数 ○ 総合相談にかかる広報・啓発内容 センター業務、介護保険制度、保健福祉サービス、認知症 出前講座、講師派遣の依頼機関

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和2年度 活動評価			
	実績（実施回数、内容、実施方法等）			活動目標に対する評価
総合相談	③相談内容内訳（延・重複あり）			
	(件)			
		H30.3	R1.12	R2.12
	介護保険・総合事業	968	758	769
	保健福祉サービス	151	64	99
	介護予防	19	1	22
	健康	51	29	182
	認知症	99	74	104
	住まい	111	43	80
	権利擁護	33	17	52
	その他	10	29	36
	④相談者の続柄内訳（延・重複あり）			
	(件)			
		H30.3	R1.12	R2.12
	本人	430	440	460
	家族親族	393	303	419
	民生委員	33	14	21
	町会・在宅福祉委員	8	12	12
	知人・近隣住民	37	23	21
	介護支援専門員	170	107	143
介護保険事業所	30	28	44	
医療機関	105	50	81	
行政機関	126	70	67	
その他	20	26	41	
※その他（新規相談機関含み） 郵便局、不動産会社、個人商店、コンビニ、新聞販売所				
⑤町別老年人口比相談割合				
(%)				
松風町	6.0	中島町	4.4	
若松町	6.9	千代台町	4.2	
千歳町	5.8	堀川町	5.7	
新川町	3.8	高盛町	3.0	
上新川町	3.5	宇賀浦町	3.4	
海岸町	3.2	日乃出町	5.0	
大縄町	5.7	的場町	4.1	
松川町	3.7	金堀町	5.5	
万代町	6.2	広野町	2.3	
⑥センターの周知経路				
(件)				
行政	70			
医療機関	43			
民生委員、町会、近隣等	25			
友人、知人	8			
広報紙、ポスター	5			
インターネット	2			
その他	101			
	<p>【活動目標】 生活に困りごとをかかえる高齢者を早期に把握し支援につなげる。</p> <p>【評価】 ・高齢者の実態把握（基本情報作成数）は令和元年度より減少も、権利擁護相談対応等の支援につなげることができた。</p> <p>・権利擁護相談対応回数が例年と比べて増加していることから、支援の必要はあるが把握されていない高齢者が、ある程度いることが推察される。地域支援者や関係機関等が、高齢者の異変に気づき、相談機関につなげることが増えるようにするための取り組みが必要である。</p> <p>・相談件数は少ないが、広報紙やポスターによる周知効果はあったと考える。</p> <p>・友人や知人、地域住民からの相談件数が増えるためには、現役世代（生産年齢者）の人へのセンター周知の工夫が必要と考える。</p> <p>・令和2年度に初めて相談のあった機関が複数あり、広報紙等の配布範囲の拡大、継続の効果が出ていると考えられる。</p> <p>・出前講座等の依頼があった関係機関は数件に留まった。出前講座や認知症サポーター養成講座等の開催を地域や関係機関に提案する場合、感染予防に配慮した実施方法について周知する必要がある。</p>			

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
	<p>②出前講座、認知症サポーター養成講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙、タウン紙に案内を掲載 ・町会、民間企業、医療機関、整骨院等へ開催を提案する。 ・要支援認定率の高い町に対し、運動器・口腔器機能向上と健康づくりをテーマとする出前講座の開催を提案する。 	

(7) 総合相談支援業務

事業内容	令和2年度 活動評価																					
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																				
総合相談	<p>⑦対象者の疾患</p> <p style="text-align: right;">(件,%)</p> <table border="1"> <tr><td>筋骨系疾患</td><td>86 (27.8)</td></tr> <tr><td>認知症</td><td>46 (14.9)</td></tr> <tr><td>循環器疾患</td><td>26 (8.4)</td></tr> <tr><td>悪性新生物</td><td>25 (8.1)</td></tr> <tr><td>精神疾患</td><td>20 (6.5)</td></tr> <tr><td>脳血管疾患</td><td>17 (5.5)</td></tr> <tr><td>心疾患</td><td>17 (5.5)</td></tr> </table> <p>※相談内容からセンターが独自で集計したもの</p>	筋骨系疾患	86 (27.8)	認知症	46 (14.9)	循環器疾患	26 (8.4)	悪性新生物	25 (8.1)	精神疾患	20 (6.5)	脳血管疾患	17 (5.5)	心疾患	17 (5.5)							
	筋骨系疾患	86 (27.8)																				
	認知症	46 (14.9)																				
	循環器疾患	26 (8.4)																				
	悪性新生物	25 (8.1)																				
	精神疾患	20 (6.5)																				
	脳血管疾患	17 (5.5)																				
	心疾患	17 (5.5)																				
	<p>3 総合相談支援業務にかかる広報・啓発実施状況</p> <p>①住民に対する広報・啓発回数</p> <p style="text-align: right;">(回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30.3</th> <th>R1.12</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>広報紙の発行</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>パンフレット等配布</td><td>10</td><td>8</td><td>4</td></tr> <tr><td>出前講座・講師派遣</td><td>11</td><td>8</td><td>3</td></tr> <tr><td>認知症サポーター養成講座</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td></tr> </tbody> </table>		H30.3	R1.12	R2.12	広報紙の発行	3	2	2	パンフレット等配布	10	8	4	出前講座・講師派遣	11	8	3	認知症サポーター養成講座	1	3	1	
		H30.3	R1.12	R2.12																		
広報紙の発行	3	2	2																			
パンフレット等配布	10	8	4																			
出前講座・講師派遣	11	8	3																			
認知症サポーター養成講座	1	3	1																			
<p>②広報紙等の配布機関</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30.3</th> <th>R1.12</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>配布機関数</td><td>-</td><td>81</td><td>124</td></tr> <tr><td>（再）新規機関数</td><td>-</td><td>25</td><td>31</td></tr> </tbody> </table>		H30.3	R1.12	R2.12	配布機関数	-	81	124	（再）新規機関数	-	25	31										
	H30.3	R1.12	R2.12																			
配布機関数	-	81	124																			
（再）新規機関数	-	25	31																			
<p>③総合相談にかかる出前講座・講師派遣の依頼機関</p> <p>〔 松川町在宅福祉委員会、堀川町会 人権擁護委員協議会函館地区部会 〕</p>																						

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(イ) 権利擁護業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第2号

【目的】高齢者等が地域において尊厳のある生活を維持し、安心して生活を行うことができるよう、専門的・継続的な視点から、高齢者等の権利擁護のため、必要な支援を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価			
	実績（実施回数、内容、実施方法等）			活動目標に対する評価
権利擁護相談 (高齢者虐待・困難事例への対応、 成年後見制度の利用促進・消費者被害の防止に関する 対応)	1 権利擁護相談対応状況			
	①対応件数 (件)			
		H30.3	R1.12	R2.12
	ケース数(実)	58	51	43
	〔(再)医療と連携あり〕	17	28	28
	対応回数(延)	725	614	722
	②対応事案内訳(実・重複あり) (件)			
		H30.3	R1.12	R2.12
	高齢者虐待	—	8	4
	〔最終〕	—	5	2
	〔最終〕	—	62.5%	50.0%
	セルフネグレクト	—	0	0
	成年後見等	—	8	9
	消費者被害	—	0	1
	困難事例	—	49	38
その他	—	0	0	
③相談者・通報者(項目重複あり) (件,%)				
	H30.3	R1.12	R2.12	
ケアマネジャー	—	18(35)	9(20.9)	
事業所	—	7(13.7)	2(4.7)	
住民	—	3(5.9)	2(4.7)	
民生委員	—	4(7.8)	2(4.7)	
本人	—	8(15.7)	8(18.6)	
親族	—	16(31.4)	10(23.3)	
行政	—	9(17.6)	3(7)	
警察	—	8(17.6)	8(18.6)	
医療機関	—	13(25.5)	9(20.9)	
不明匿名	—	0(0)	0(0)	
その他	—	7(13.7)	0(0)	
※件数(ケース数に対する割合) ※令和元年度から「対応事案内訳」「相談者・通報者」は実件数での計上となった。				
【活動目標】 相談した後の流れがイメージできることで、地域支援者や関係機関が相談機関へつなげられるようになる。				
【評価】 ・地域支援者や関係機関(医療機関、介護サービス事業所)に対して、個別ケースの相談や対応、研修会や地域ケア会議、懇談会を開催し、相談後の流れを理解していただくことはできたと思われる。 しかし、相談機関につながらず、課題が困難化したケースも見受けられ、その点は達成できなかったと考える。				
○地域支援者に対するアプローチ ・地域ケア会議の開催 同じ町で活動する地域支援者と介護、障がいサービス事業所職員を参集した。地域の現状や各参加機関の相談対応状況を知り、お互いに相談・協働できる関係であることを認識することができた。				
・民児協定例会への参加、懇談会の開催				
・リーフレットの配布 見守りや気づく視点を話題に取り上げたが、相談数の増加にはつながらっていない。 隣近所の住民は対象者の状況を気にしていたが、相談につながらず、課題が複雑化した状態で医療機関から相談が入ったケースも見受けられた。 地域支援者や地域住民から相談が入るよう、次年度から取り組む必要がある。				
○医療機関に対するアプローチ ・個別ケースの相談対応、対応のフィードバック ・広報紙を配布(持参) 認知症が疑われる対象者についての相談が入る等、必要時センターへ相談が入っている。 支援拒否のある対象者の精神科への受診促し等連携し支援できる等、相談対応後にフィードバックすることを積み重ねたことで、センターの対応の流れを理解していただくことができたと思われる。 今後も相談をし合えるようアプローチを継続する必要がある。				

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>ケアマネジャーや介護サービス事業所職員が虐待や成年後見に関する知識を持ち、相談することができる。</p> <p>医療の介入を要する対象者について、医療機関と相談し、支援できる。</p> <p>早期相談に向けて、地域支援者や関係機関が町の状況を知り、地域の見守りについて考えることができる。</p>	<p>1 研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域の介護サービス事業所を対象に、高齢者虐待に関する早期相談に向けた気づきの視点を周知することを目的として、事例等を用いて研修会を開催する。 ・圏域の居宅介護支援事業所や、小規模多機能型居宅介護事業所のケアマネジャーを対象に、成年後見制度申立ての流れ等について知り、制度が必要な高齢者の支援を行う際に相談機関につなげられやすくなることを目的として、成年後見制度に関する相談機関等と協働し、研修会を開催する。 ・研修会開催時には、講義だけではなく、主催者と参加者とが交流をもち、顔の見える関係が構築できるよう工夫する。 ・研修後の相談状況について、アンケートや聞き取り等を実施する。 <p>2 医療機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別ケースの相談やその対応のフィードバック、広報紙等の持参等を積み重ねていき、相談し合える関係性を維持していく。 <p>3 個別ケースの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンスや地域ケア会議等を開催し、対象者に関わった支援者などでケースの振り返りを行う。ケースの積み重ねを通じて、地域支援者からの早期相談につながるよう取り組む。 <p>4 広報・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙へ権利擁護に関する内容を掲載し、地域住民や地域支援者、関係機関等へ配布する。 ・高齢者虐待防止推進月間である11月には、高齢者虐待に特化した内容とし、高齢者虐待の早期相談の気づきの視点を周知する。 ・作成した広報紙を地域住民が足を運ぶ場所へ配布する。 (配布先は総合相談支援業務を参照) <p>5 懇談会や地域ケア会議等の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りや相談の視点を周知することを目的として、権利擁護対応件数が多い町の地域支援者へ懇談会や地域ケア会議等の開催を提案する。 	<p>○権利擁護相談対応状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応件数 ・対応事案内訳 ・相談、通報者内訳 <p>○高齢者虐待対応状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通報件数 ・虐待実件数 ・終結件数（率） <p>○高齢者虐待、困難事例成年後見制度、消費者被害に関する研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 ・参加機関、参加者数 ・研修会後の対応状況 <p>○医療機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携件数 ・ケース内容 <p>○カンファレンスや地域ケア会議、懇談会等の開催回数、開催内容</p> <p>○権利擁護業務にかかる広報・啓発活動状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報・啓発内容 ・配布先

(イ) 権利擁護業務

事業内容	令和2年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
権利擁護相談 （高齢者虐待・困難事例への対応、成年後見制度の利用促進・消費者被害の防止に関する対応）	<p>2 権利擁護業務に関する研修会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待に関する研修会の開催 <p>令和2年11月25日 高齢者虐待防止研修会</p> <p>目的： 相談した後の流れを理解したり、新型コロナウイルス感染症感染拡大により、本人や家族の環境が変化し、虐待が起こりやすくなっている現状を認識し、気づきの視点を獲得。</p> <p>テーマ： 「高齢者虐待防止研修会 ～新型コロナウイルス感染症拡大禍での困りごと、心配事について～」</p> <p>場所：ふらっとDaimon</p> <p>対象者：圏域の介護サービス事業所</p> <p>圏域内28事業所中8事業所から申込みがあったが、新型コロナウイルス感染症の影響によりキャンセルが相次ぎ当日は2事業所の参加となった。</p> <p>内訳 ヘルパーステーション（1）、デイサービス（1）不参加の理由 新型コロナウイルス感染症の感染予防（12カ所） 開催時間帯（6カ所）</p> <p>対応したセンター職員：保健師1名 社会福祉士2名</p> <p>内容：1 情報提供 （新型コロナウイルス感染症拡大の影響で本人や家族を取り巻く環境が変化したことにより発生した虐待事例、対応の流れ）</p> <p>2 個人ワーク、全体共有 （新型コロナウイルス感染症拡大禍で本人や家族を取り巻く環境の変化について）</p> <p>事前の文書にて感染予防対策として1事業所から1名のみ参加とし、当日は手指消毒、マスク、フェイスシールドを用意した。</p> <p>3 権利擁護にかかる広報・啓発活動</p> <p>①広報紙発行・配布</p> <p>令和2年11月発行 広報紙</p> <p>虐待防止、権利擁護に関する記事を掲載 （高齢者虐待とは、虐待の気づきのサイン、ネグレクトの事例、支援の流れ、守秘義務）</p> <p>工夫点：高齢者虐待への気づきや相談先、相談の流れをイメージしやすくなるよう、イラスト、フローチャートで図式化し見やすさを意識した。</p> <p>令和3年3月 成年後見制度に関する内容を掲載 （成年後見制度とは/利用のメリット）</p> <p>配布先：従来の配布先に加え、交番、総合病院、圏域のコンビニ、歯科医院、スーパー等</p> <p>②リーフレットの配布</p> <p>消費者被害に関するリーフレット配布 対象：松川町在宅福祉委員会 新川町在宅福祉委員会</p> <p>高齢者虐待に関するリーフレット配布 対象：広報紙配布先</p> <p>工夫点：配布先の職員や従業員へリーフレットを渡しながら内容を口頭で説明し、虐待に関する理解を促した。</p>	<p>○介護サービス事業所に対するアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待防止研修会の開催 <p>当初はグループワーク実施予定であったが、感染予防のため、全体共有する形をとり、顔の見える関係を構築できるようにした。</p> <p>参加者からは、本人だけではなく、家族に起きる環境の変化への気づきが虐待防止への一助となることを認識できるきっかけとなったとの反応が得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加が得られなかった事業所に対し、全体共有した内容を書面にて配布した。参加者数が少なかったことから、令和3年度は開催方法や時間帯等を工夫する必要がある。 <p>○地域住民や高齢者が訪れるもしくは高齢者宅を訪問する機関へのアプローチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報紙への掲載方法や配布時の工夫をし、一部の銀行、コンビニ、スーパーへ再度アプローチし広報紙設置の承諾を得た。 ・初回相談者とはならないが、権利擁護ケースの対象者について情報共有し、その後連携し支援できた郵便局が4カ所（圏域内3カ所）あった。これまで広報紙の配布を通じてセンターの機能の周知、顔の見える関係づくりを行っていたことの効果と考える。次年度も新たな機関との関係性の構築、既存の機関との関係性を維持できるよう取り組みを継続する。 ・令和3年3月にセンターが実施した居宅介護支援事業所のケアマネジャーに対するアンケートでは“不足、不十分と感じるスキル”について、約半数が“成年後見”と回答した。（回答者32名中16名） ケアマネジャーが成年後見等に関してスキルアップし、制度を必要とする対象者を相談機関へつなげられるよう取り組む必要があると考える。

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第3号

【目的】高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、個々の高齢者の状況や変化に応じて、包括的かつ継続的に支援していくための地域における多職種相互の連携・協働の体制づくりや個々の介護支援専門員に対する支援を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価																																																																									
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																																																								
介護支援専門員 に対する個別支援	<p>1. 介護支援専門員への個別支援状況（実）</p> <p>①支援件数</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31.3</th> <th>R1.12</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケース数</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>終結件数</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>終結率</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>②相談者（重複あり）</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31.3</th> <th>R1.12</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ケアマネジャー</td> <td>14</td> <td>9</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>本人</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>家族</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>民生委員</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>③支援内容</p> <p style="text-align: right;">(件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31.3</th> <th>R1.12</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>情報提供</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>助言・指導</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>直接介入支援</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>連携の支援</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>連携の支援（民生委員）</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>対応の振り返り</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>地域ケア会議開催</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		H31.3	R1.12	R2.12	ケース数	18	18	18	終結件数	18	18	18	終結率	100%	100%	100%		H31.3	R1.12	R2.12	ケアマネジャー	14	9	12	本人	1	2	1	家族	1	5	2	民生委員			2	その他	6	2	3		H31.3	R1.12	R2.12	情報提供	10	7	9	助言・指導	7	12	15	直接介入支援			3	連携の支援	4	1	9	連携の支援（民生委員）			5	対応の振り返り			1	地域ケア会議開催			1	<p>【活動目標】 地域のケアマネジャーからの相談件数が増える。</p> <p>【評価】 ・ケアマネジャーからの相談を待たず、困難を抱えていそうなケアマネジャーに気づいた時には、センター側から積極的に声をかけるよう意識したが、例年と比較して支援件数に大きな差はなかった。（1-②参照）</p> <p>・支援件数が増えない理由として、まずは自分で対応してみる、事業所の上司、同僚、他事業所のケアマネジャーに相談するという回答が多くを占め、視点を変えると、事業所内での相談体制が確立されている、他事業所との連携体制や協力体制を築くことができていると考えることができる。（2-①、2-②参照）</p> <p>【活動目標】 ケアマネジャーが困難ケースを対応することで自信と技術の向上を図ることができる。</p> <p>【評価】 ・認知症等を理由に、判断力や理解力が低下した人について、日常的に多くの支援を要することから対応に困難を感じていることが分かった。（2-③グラフ参照）</p> <p>・居宅介護支援事業所のケアマネジャーを対象としたアンケートでは、「知識や技術について、不足・不十分と感じる」と全員が回答した。（2-④参照）内容は、経済困窮者の支援や成年後見制度に関することが多く、研修の機会や実際のケアマネジメントにおける支援等を必要としていることについて、改めて把握することができた。</p> <p>・ケースによって、地域支援者との連携が必要な場合があるが、地域支援者の要となる民生委員とのつながりを持ったことがないケアマネジャーが8割以上いることが分かった。（2-⑤参照）利用者の地域でのより良い生活を支援することができるよう、ケアマネジャーが地域の方と共に支援するという視点を持てる取り組みをしていく必要があると考える。</p>
		H31.3	R1.12	R2.12																																																																						
	ケース数	18	18	18																																																																						
	終結件数	18	18	18																																																																						
	終結率	100%	100%	100%																																																																						
		H31.3	R1.12	R2.12																																																																						
	ケアマネジャー	14	9	12																																																																						
	本人	1	2	1																																																																						
	家族	1	5	2																																																																						
	民生委員			2																																																																						
その他	6	2	3																																																																							
	H31.3	R1.12	R2.12																																																																							
情報提供	10	7	9																																																																							
助言・指導	7	12	15																																																																							
直接介入支援			3																																																																							
連携の支援	4	1	9																																																																							
連携の支援（民生委員）			5																																																																							
対応の振り返り			1																																																																							
地域ケア会議開催			1																																																																							
	<p>2. 居宅介護支援事業所に所属する、ケアマネジャーを対象としたアンケート（抜粋）</p> <p>①センターに相談しようと思うか</p> <p>■ 思う : ■ まずは自分で対応 ■ 思わない</p> <p>②相談する相手について</p> <p>● 事業所の上司や同僚 ■ 他事業所のケアマネ ◆ 包括 ■ その他</p>																																																																									

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>地域支援者とながりを 持つケアマネジャーが増 える。</p>	<p>1 ケアマネジャーが抱える課題の把握と相談しやすい体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域内の居宅介護支援事業所等への訪問、またはアンケートを実施し、体制を把握したり、ケアマネジャーの業務実施状況、センターに対する意見や要望等を把握できるよう努める。 ・懇談会や研修会、ケアマネジャー来所時等、顔を合わせて意見交換できる場を設ける。 ・必要に応じ、サービス担当者会議やカンファレンスへ参加する。 <p>・新型コロナウイルス感染症に関する懇談会や相談対応、情報発信を行う。</p> <p>2 ケアマネジャーの相談対応、後方支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防支援業務を委託する居宅介護支援事業所ごとに、センター職員を担当制とし対応する。 ・必要に応じて相談内容をセンター内で共有し、ケアマネジャーに対する支援の方向性を協議する。 <p>・ICFの視点から、ケアマネジメントを実践することができているか意識して関わるよう努める。（自立支援、地域との関わり等）</p> <p>3 地域支援者とのつながりをサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーを対象とし、民生委員とケアマネジャーの連携ガイドを活用した懇談会または研修会を開催する。 ・地域支援者およびケアマネジャーが参加する地域ケア会議を開催し、実際に顔を合わせて連絡先を交換し、必要に応じて連携を図ることができる体制づくりに取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援数 ・終結数（率） ・支援に至った要因 ・支援内容 ・居宅介護支援事業所の訪問またはケアマネジャー向けアンケート

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

事業内容	令和2年度 活動評価							
	実績（実施回数，内容，実施方法等）	活動目標に対する評価						
介護支援専門員 に対する個別支援	<p>③ケアマネジャーとして、辛い、大変と感ずること</p> <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ある</td><td>81%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>19%</td></tr> </table>	評価	割合	ある	81%	ない	19%	
	評価	割合						
	ある	81%						
ない	19%							
<p>④知識、技術など不足と感ずることがあるか</p> <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ある</td><td>100%</td></tr> </table>	評価	割合	ある	100%				
評価	割合							
ある	100%							
<p>⑤民生委員とつながりを持てたケースがあるか</p> <table border="1"> <tr><th>評価</th><th>割合</th></tr> <tr><td>ある</td><td>16%</td></tr> <tr><td>ない</td><td>84%</td></tr> </table>	評価	割合	ある	16%	ない	84%		
評価	割合							
ある	16%							
ない	84%							

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

事業内容	令和2年度 活動評価	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価
包括的・継続的 ケアマネジメント 体制の構築	<p>1 合同ケアマネジメント研修</p> <p>1回目 令和2年9月24日（木）14時～16時30分</p> <p>2回目 令和2年9月25日（金）9時30分～12時</p> <p>会場：亀田交流プラザ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「アセスメントに役立つICFの活用」 ・目的：多くのケアマネジャーが、ICFの視点に立ち、本人や地域の強みを活かしたケアマネジメントを行うことができるようになる。 ・実施方法：講師と会場をつなぐオンライン ・参加者（圏域内）：16名 ・参加事業所（圏域内）：居宅介護支援事業所8事業所、その他4事業所 	<p>【活動目標】</p> <p>地域のケアマネジャーが、ICFの考え方を活用したアセスメントができるようになる。</p> <p>【評 価】</p> <p>1 合同ケアマネジメント研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の評価を活かし、令和2年度はより理解しやすい研修を目指し、講師と繰り返し研修内容の相談を行い、研修会当日にはICFをテーマとした根拠について共有を図った。 <p>・アンケート結果では、ICFの理解度が令和元年度と比較して83%と上昇した（令和元年度58%）。自由記載では、「考え方を理解することが大切」「実践で活用できそう」等、ICFを理解できたと示す回答が多かった。</p> <p>2 圏域懇談会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を通し、新型コロナウイルス感染症は目に見えない分りにくい所で高齢者の健康や生活等全般に渡って影響を及ぼすということが理解できた。そのため平常時よりも丁寧なケアマネジメントの視点を持つことが必要であるという気づきが得られた。 <p>3 圏域の居宅介護支援事業所における参加状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同研修会、圏域懇談会の両方とも参加した居宅介護支援事業所は、全体の8割と多いが、残り2割の居宅介護支援事業所が参加していない。定期的に研修の機会を持ち、知識や情報を取り入れ、スキルアップを図ることは重要なため、令和3年度は令和2年度よりも参加事業所が増えるように、一事業所ずつ声かけする等対応していきたい。
	<p>2 圏域懇談会</p> <p>令和2年12月16日（水）14時～15時30分</p> <p>会場：サンリフレ函館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ：「withコロナケアマネジメント～今だから、これからも～」 ・目的：ある一つのケースを基に、新型コロナウイルス感染症が流行してしまった場合のケアマネジメントについて考える。新型コロナウイルス感染症は高齢者やその家族にどういった影響をおよぼすのか、どういった所にケアマネジメントの視点を当てるのか、ICFの視点を取り入れ検討した。その他、地域における新型コロナウイルス関連の情報交換や共有等を行った。 ・実施方法：会場集合およびオンライン ・参加者：19名（会場13名、オンライン6名） ・参加事業所：居宅介護支援事業所10事業所、その他2事業所（オンライン2事業所） ・参加者の感想：「他事業所の方の意見や情報を聞くことができて良かった」「不安な時期だったので、参加して良かった」等 	

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標
地域のケアマネジャーがICFの考え方を活用したケアマネジメントを実践できるようになる。	<p>1 10センター合同ケアマネジメント研修の開催</p> <p><テーマ> 「ICFの考え方を活用し、ケアプランを作成しよう」</p> <p><研修形態> 講義、演習</p> <p><内容> 1) 令和2年度の振り返り 2) 事例を用いた研修 ・ICF分類を用いた情報の整理 ・課題整理総括表を用いた情報整理 ・ニーズ、見通しのケアプランへの反映</p> <p>2 事例検討会・懇談会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域ケアマネジメント研修の実施。（ICFの振り返り） ・圏域の主任ケアマネジャーと連携して開催する。 ・医療や障がい等他分野における専門職の参加を促す。相互の役割を知り円滑に連携体制を図ることができるようにする。 ・ケアマネジャー同士の横つながりを強化、お互いに支え合える関係の構築を意識する。 <p>3 ニュースレターの発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーが所属する事業所や施設に向けて、ケアマネジメントに活用できる情報や研修会等の周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント研修開催時アンケート ・事例検討会・懇談会開催時アンケート ・参加数（率）

(I) 地域ケア会議推進事業

【根拠法令】介護保険法第115条の48

【目的】地域包括ケアシステムの構築のため、地域ケア会議を開催し、介護サービスだけでなく、様々な社会資源が有機的に連携することができる環境を整備し、高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を営むことができるよう支援を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価																					
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																				
個別ケースの検討を行う地域ケア会議	1 個別ケースの検討を行う地域ケア会議	<p>【活動目標】</p> <p>支援関係者が顔の見える関係性を構築し、課題を共有し、支援の方針がまとまり、役割分担をすることで対象者の円滑な支援を行うことができる。</p> <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年3月に、地域ケア会議を2回開催し、目標数値は達成した。 予定参集者の参加を概ね得られ、役割分担し、対象者の支援につなげることができた。 ケアマネジャーと地域支援者が参集し連携体制について検討した。地域ケア会議後も連携ができるように互いの関わりや役割について会議で触れたり、連絡先を交換する場を設ける等配慮した。しかし、両者がお互いに連絡を取り、対象者を支援するには至らなかった。 地域や関係者の見守り体制等について検討したが、支援者によって見守る視点等にバラつきがあることがわかった。支援の必要性があっても気づかない、また、相談につながっていない高齢者がいることが推察された。 高齢者の自立支援に向けて、薬剤師、理学療法士、看護師、ヘルパー、地域支援者を参集し実施した。ケアマネジャーは専門職からの意見を聞くことで、自立した生活への支援に向けて考え、支援につなげることができた。 																				
	①開催状況																					
	(回,%)																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1.12</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標数値</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>開催回数</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>100.0</td> <td>50.0</td> <td>66.7</td> </tr> </tbody> </table>			H30	R1.12	R2.12	目標数値	6	6	6	開催回数	6	3	4	達成率	100.0	50.0	66.7				
			H30	R1.12	R2.12																	
	目標数値		6	6	6																	
	開催回数		6	3	4																	
	達成率		100.0	50.0	66.7																	
	②参加者状況																					
	家族、民生委員、近隣住民、ケアマネジャー、介護サービス事業所、医療機関、行政、警察、サービス付き高齢者住宅																					
③把握した地域課題																						
<ul style="list-style-type: none"> 認知症（疑いを含む）の方が近所に在住する場合、地域住民は「火の始末が心配」と訴えることが多い。認知症の理解と医療・介護の介入が不安緩和につながり、支援の協力を得られる。 本人、同居家族（介護者）が地域から孤立し、必要な医療・介護を受け入れることが難しい。 同居世帯の場合、地域では見守り対象にならず、生活困窮状況に気づきづらい。 地域住民が支援の必要な状況かどうかかわからず、相談機関につなげることが難しい。 介護サービス事業所職員が支援につなげる見極めが難しく、相談機関につなげるか迷う。 																						
④個別課題																						
(件)																						
<table border="1"> <tbody> <tr><td>日常生活に関する課題</td><td>3</td></tr> <tr><td>認知症や精神疾患による問題行動</td><td>3</td></tr> <tr><td>健康管理に関する課題</td><td>3</td></tr> <tr><td>サービス利用に関する課題</td><td>1</td></tr> <tr><td>経済面の課題</td><td>2</td></tr> <tr><td>家族の課題</td><td>4</td></tr> <tr><td>支援者との関係に関する課題</td><td>2</td></tr> <tr><td>地域との関係についての課題</td><td>3</td></tr> <tr><td>その他</td><td>4</td></tr> </tbody> </table>	日常生活に関する課題	3	認知症や精神疾患による問題行動	3	健康管理に関する課題	3	サービス利用に関する課題	1	経済面の課題	2	家族の課題	4	支援者との関係に関する課題	2	地域との関係についての課題	3	その他	4				
日常生活に関する課題	3																					
認知症や精神疾患による問題行動	3																					
健康管理に関する課題	3																					
サービス利用に関する課題	1																					
経済面の課題	2																					
家族の課題	4																					
支援者との関係に関する課題	2																					
地域との関係についての課題	3																					
その他	4																					
⑤支援内容																						
(件)																						
<table border="1"> <tbody> <tr><td>地域における見守り体制の構築</td><td>1</td></tr> <tr><td>関係機関における見守り体制および支援体制の構築</td><td>4</td></tr> <tr><td>サービス等利用調整</td><td>3</td></tr> <tr><td>サービス等利用調整・制度等の拡充</td><td>0</td></tr> <tr><td>地域住民への周知</td><td>0</td></tr> <tr><td>家族への支援</td><td>2</td></tr> <tr><td>健康管理に関する支援</td><td>1</td></tr> <tr><td>関係機関のネットワーク構築</td><td>4</td></tr> <tr><td>地域のネットワーク構築</td><td>1</td></tr> <tr><td>地域づくり</td><td>0</td></tr> <tr><td>その他</td><td>2</td></tr> </tbody> </table>	地域における見守り体制の構築	1	関係機関における見守り体制および支援体制の構築	4	サービス等利用調整	3	サービス等利用調整・制度等の拡充	0	地域住民への周知	0	家族への支援	2	健康管理に関する支援	1	関係機関のネットワーク構築	4	地域のネットワーク構築	1	地域づくり	0	その他	2
地域における見守り体制の構築	1																					
関係機関における見守り体制および支援体制の構築	4																					
サービス等利用調整	3																					
サービス等利用調整・制度等の拡充	0																					
地域住民への周知	0																					
家族への支援	2																					
健康管理に関する支援	1																					
関係機関のネットワーク構築	4																					
地域のネットワーク構築	1																					
地域づくり	0																					
その他	2																					

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>ケアマネジャーと地域支援者が連携して高齢者の支援を行うことができる。</p> <p>地域支援者や関係機関が町の状況を知り、地域の見守りについて考えることができる。</p> <p>ケアマネジャーが専門職からの意見を取り入れ、対象者の自立した生活について考え、今後の支援に活かすことができる。</p>	<p>1 地域ケア会議の開催をし、ケアマネジャーと地域支援者が連携しケース支援を行うための環境整備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーと地域支援者等が、ケースとの関わりや支援経過等を情報共有し、ケースの課題や支援の方向性等を検討する。 ・必要な連携が取れるように連絡先を交換するだけでなく、ケアマネジャーが地域支援者に歩み寄ることができるように、センターが配慮する。 ・ケアマネジャーと地域支援者との連携状況をモニタリングする。 ・特に認知症（疑いを含む）の人を対象とした際には、認知症の理解や互いの関わり、今後の方向性を話題にし、見守り体制の構築につなげる。 <p>2 個別ケースの振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援者や介護サービス事業所（特に地域密着型サービス事業所）の職員等、対象者に関わった支援者でケースの振り返りを行う。見守り対象者や見守る視点、気づきをどのように相談機関へつなげるか等話題にする。 <p>3 ケアマネジャーが関わる事例についての検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護計画書を基にこれまでの支援体制を見直し、専門職等の意見も取り入れつつ、本人の望む自立した生活に向けた支援について検討する。 <p>※個別ケースの検討を行う地域ケア会議開催時には、参加者へ地域に気になる高齢者がいないか声掛けをする。また、地域に同様の悩みをかかえている高齢者がいるかもしれないことを参加者に意識してもらえるように働きかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と目標数値達成率 ・携わった職員数 ・参加者状況 ・検討した個別課題 ・検討した支援内容 ・把握した地域課題 ・ケアマネジャーと地域支援者の連携状況 ・認知症（疑いを含む）の方への支援および地域での見守り体制の構築方法について検討した回数 ・参加者の感想 ・参加した地域支援者や介護サービス事業所職員等からの相談件数 ・ケアマネジャーの感想

(I) 地域ケア会議推進事業

事業内容	令和2年度 活動評価				
	実績（実施回数、内容、実施方法等）			活動目標に対する評価	
地域課題の検討を行う地域ケア会議	1 地域課題の検討を行う地域ケア会議				<p>【活動目標】 住民と関係機関等が、地域の状況・特性を知り、我が事として地域課題や今後の取り組みを考えることができる。</p> <p>【評価】 ・令和3年3月に、地域ケア会議を1回開催し、目標数値は達成した。</p> <p>○令和2年9月1日 ・地域の実態把握を実施した際に、新型コロナウイルス感染症の流行により、活動継続について不安があることが分かり、地域ケア会議の開催に至った。</p> <p>・元気サロンでの感染予防対策、感染拡大した際の休止の判断、活動内容について共有し、参加者は活動の継続や再開の参考とした。</p> <p>・意見交換やセンターで作成した名刺を交換し、リーダー同士が顔見知りとなり、今後情報交換ができる繋がりをもつことができた。</p> <p>○令和2年10月9日 ・堀川町は筋骨系疾患の相談件数が多いこと、既存の運動サークルの難易度が高く参加できなくなった高齢者がいること、地域とのつながりが少ない高齢者がいることを参加者で共有した。</p> <p>・地域住民からの「今の暮らしを長く続けたい」、「みんなで集まって話をすることが頭の体操になる」等の意見に対し、参集した専門職からの助言があり、住民主体の活動の場である「元気サロン」の年度中の開催を決定した。</p> <p>○令和3年3月18日 ・新型コロナウイルス感染症流行の影響で祭りや茶話会が中止となり、高齢者の姿をみかけなくなった。地域支援者が減少したこともあり、地域の見守りが脆弱化していることが課題として明らかとなる。</p> <p>・住民が“馴染みの関係”になることを課題とし、集い場の開催や交流を促すしかけが必要であることを共有した。</p> <p>【活動目標】 地域ケア会議に対する興味関心をもつ住民、関係者が増える。</p> <p>【評価】 ・第2回広報紙に“地域ケア会議”について掲載した。写真や内容、効果等を掲載。興味関心を持ってもらえるよう努めた。</p>
	①開催状況	(回,%)			
		H30	R1.12	R2.12	
	目標数値	3	3	3	
	開催回数	4	3	2	
	達成率	133.3	100.0	66.7	
	②テーマ、参加機関	令和2年9月1日 14時～15時30分			
	テーマ	これからも仲間と元気に楽しく過ごす～コロナ禍でのサロンについて一緒に考えてみませんか～			
	参加者	各元気サロンのリーダー等 10名			
	会場	ふらっとDaimon			
職員	3名				
	令和2年10月9日 13時30分～15時				
テーマ	わたしのめざしたい姿				
参加者	地域住民18人、歯科衛生士1人、管理栄養士1人				
会場	堀川町会館				
職員	5名				
	令和3年3月18日 19時～20時20分				
テーマ	あれ？、と思うことはありませんか？～日乃出町の高齢者の見守り～				
参加者	地域支援者4名、ケアマネジャー1名、地域密着型サービス事業所職員1名、障がい福祉サービス事業所職員1名、住宅型有料老人ホーム職員1名				
会場	日乃出町会館				
職員	2名				
2 地域ケア会議にかかる広報・啓発					
	(回)				
	H30	R1.12	R2.12		
地域ケア会議	12	4	1		

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>ケアマネジャーと地域支援者が連携して高齢者の支援を行うことができる。</p> <p>住民や地域支援者、介護サービス事業所等が高齢者の見守りや支え合いについて関心を持ち、同じ町に住む者同士の馴染みの関係づくりについて考える。</p> <p>健康づくり活動に取り組まれている町に活動の場ができ、社会交流や介護予防に取り組む高齢者が増える。</p>	<p>1 ケアマネジャーと地域支援者が困りごとをかかえた高齢者の早期対応について検討する。</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員および圏域の居宅介護支援事業所のケアマネジャーを参集する。ケアマネジャーは地域と関わった経験が多いケアマネジャーと経験が少ないケアマネジャーを参集する。 ・居宅介護支援事業所が高齢者の困りごとについて相談できる場所の1つであることを双方が理解できる内容とする。民生委員はセンター以外に相談できる場所を知る機会となり、ケアマネジャーは専門職としての役割を再認識する機会、地域に興味を持つことや地域を知ることができる機会となり、お互いが連携して地域づくりができる体制構築の一助とする。 <p>2 地域の見守りや支え合いについて、地域支援者や事業所と共に検討を行う。</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援者や地域密着型サービス事業所、障害福祉サービス事業所を参集。見守りや集い場の開催等をテーマとし、地域ケア会議を開催する。 ・令和2年度に開催した町では同じ参集者とし、馴染みの関係となれるように配慮する。 ・テーマにより、公的機関等、参集範囲を拡大する。 ・権利擁護対応件数が多い町に開催を提案する。 <p>3 自分の家で元気に暮らし続ける心構えをもつことで、要介護状態にならないような生活を送れる人が増えるようになるためには、どうすればよいのかの検討を行う。</p> <p><テーマ></p> <p>「わたしのめざしたい姿」</p> <p><内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わが町懇談会の開催（町会、民生委員等を参集） ・'身近な場所で、みんなで健康づくり'を話題に他町会の介護予防の取り組み（元気サロン等）を紹介。 ・「元気サロン」のデモンストレーション ・地域ケア会議の開催 ・介護予防、健康づくりに取り組む必要があることを理解する。 ・取り組むために課題になることを話し合い、介護予防活動をわが町でどのように実践できるか検討する。 <p>※健康づくり活動に取り組まれている地域へ提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数と目標数値達成率 ・携わった職員数 ・会場 ・参加者状況 ・検討した地域課題および今後の方向性 ・地域づくり、資源開発への発展

イ 生活支援体制整備事業

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

【根拠法令】介護保険法第115条の45第2項第5号

【目的】地域における住民主体の助け合い活動を促進する仕組みおよび高齢者の社会参加を促進する仕組みの創出ならびに充実を行う。

事業内容	令和2年度 活動評価									
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価								
第2層生活支援 コーディネーター 活動	1 地域づくり活動	<p>【活動目標】 高齢者が身近な場所で自立した生活を送ることができるよう、介護予防・健康づくり・社会参加等を住民主体となり実践できる取り組みの場を増やす。</p> <p>【評価】</p> <p>1 地域づくり活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気サロンは新規1グループが立ち上がり活動を開始した。 ・活動をしてきた9サロンのうち、2サロンは会場の都合等の理由で活動終了、7サロンは活動を継続できた。 「おれんじの木」は定員制とし継続している。 <p>①元気サロンの新規立ち上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座でアンケートを実施した結果、「既存の運動サークルの難易度が高く、参加できなくなった高齢者がいる」、「集いの場に参加してみたいが、できずに地域のつながりが少ない住民がいる」等の課題があることが分かった。 ・地域ケア会議を実施し、地域住民と課題を共有した。住民から「今の暮らしを長く続けたい」、そのためには「みんなで集まって体操等をしたい」という意見が聞かれた。 10月から【元気サロン堀川】を月2回開催することが決定した。 ・参加者から「来年も続けたい」という声があるため継続開催し、自主活動に向けて取り組んでいく。 <p>②シェアトークカフェおれんじの木</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第2回の開催を中止していたが、新型コロナウイルス感染症の流行を考慮しながら実施。第3回も令和3年3月に実施することができた。 ・地域住民と専門職による「旗揚げ隊」と共に開催している。 ・参加者からは「楽しく参加できた」、「また参加したい」との反応があった。 								
	①元気サロンの新規立ち上げ（元気サロン堀川）									
	1) 出前講座（令和2年9月18日 13時30分～15時）									
	<table border="1"> <tr><td>内容</td><td>講話「フレイル予防について」、運動の実施</td></tr> <tr><td>参加者</td><td>地域住民23名</td></tr> <tr><td>会場</td><td>堀川町会館</td></tr> <tr><td>職員</td><td>4名と他センターより2名 計6名</td></tr> </table>		内容	講話「フレイル予防について」、運動の実施	参加者	地域住民23名	会場	堀川町会館	職員	4名と他センターより2名 計6名
	内容		講話「フレイル予防について」、運動の実施							
	参加者		地域住民23名							
	会場		堀川町会館							
	職員		4名と他センターより2名 計6名							
	2) 地域ケア会議（令和2年10月9日 13時30分～15時）									
	<table border="1"> <tr><td>テーマ</td><td>わたしのめざしたい姿</td></tr> <tr><td>参加者</td><td>地域住民18名、歯科衛生士1名、管理栄養士1名</td></tr> <tr><td>会場</td><td>堀川町会館</td></tr> <tr><td>職員</td><td>5名</td></tr> </table>		テーマ	わたしのめざしたい姿	参加者	地域住民18名、歯科衛生士1名、管理栄養士1名	会場	堀川町会館	職員	5名
テーマ	わたしのめざしたい姿									
参加者	地域住民18名、歯科衛生士1名、管理栄養士1名									
会場	堀川町会館									
職員	5名									
3) 元気サロン活動支援 (R2.12)										
<table border="1"> <tr><td>開催回数</td><td>参加者（実）</td><td>1回平均</td></tr> <tr><td>5回</td><td>28人</td><td>15人</td></tr> </table>	開催回数	参加者（実）	1回平均	5回	28人	15人				
開催回数	参加者（実）	1回平均								
5回	28人	15人								
②シェアトークカフェおれんじの木 第2回開催（令和2年11月11日 13時30分～15時）										
<table border="1"> <tr><td>テーマ</td><td>終活について</td></tr> <tr><td>講師</td><td>旭ヶ岡の家 介護老人福祉施設生活相談員 南部雄一氏</td></tr> <tr><td>参加者</td><td>地域住民9名 就労継続支援B型事業所職員1名</td></tr> <tr><td>会場</td><td>ふらっとDaimon</td></tr> <tr><td>職員</td><td>4名</td></tr> </table>	テーマ	終活について	講師	旭ヶ岡の家 介護老人福祉施設生活相談員 南部雄一氏	参加者	地域住民9名 就労継続支援B型事業所職員1名	会場	ふらっとDaimon	職員	4名
テーマ	終活について									
講師	旭ヶ岡の家 介護老人福祉施設生活相談員 南部雄一氏									
参加者	地域住民9名 就労継続支援B型事業所職員1名									
会場	ふらっとDaimon									
職員	4名									
第3回開催（令和3年3月24日 13時30分～15時）										
<table border="1"> <tr><td>テーマ</td><td>葬儀について</td></tr> <tr><td>講師</td><td>有限会社 小田桐葬儀社 小田桐弘晃氏</td></tr> <tr><td>参加者</td><td>地域住民10名 就労継続支援B型事業所職員1名</td></tr> <tr><td>会場</td><td>ふらっとDaimon</td></tr> <tr><td>職員</td><td>5名</td></tr> </table>	テーマ	葬儀について	講師	有限会社 小田桐葬儀社 小田桐弘晃氏	参加者	地域住民10名 就労継続支援B型事業所職員1名	会場	ふらっとDaimon	職員	5名
テーマ	葬儀について									
講師	有限会社 小田桐葬儀社 小田桐弘晃氏									
参加者	地域住民10名 就労継続支援B型事業所職員1名									
会場	ふらっとDaimon									
職員	5名									
※開催にあたり旗揚げ隊ミーティングを実施（令和2年10月5日、11月18日、令和3年1月13日）										

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>休止中の元気サロンの参加者が集い場をみつけ活動を続ける。</p> <p>元気サロン参加者が運動機能向上のための取り組みを継続しつつ、健口づくりに取り組むことができる。</p>	<p>1 元気サロンの継続支援</p> <p>①自主活動支援（10グループ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、休止している元気サロンが活動を再開できるように、令和2年度に把握した課題を基に新たな会場の検討等を参加者と共に行っていく。 ・休止している元気サロンの参加者が、休止していても健康づくり活動に取り組むことができる、かつ参加者同士で見守り合いができるように健康づくりに関するリーフレットの配布をリーダー等と検討する。 ・開催している元気サロンが継続できるように、体力測定や健口づくりの実施への後方支援をする。 <p>②継続教室支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力測定や健口づくりを実施し、活動を継続できるように支援する。 ・次年度に自主活動グループとして実施できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援回数、支援内容 ・参加者数 ・支援した職員数 ・住民同士の助け合い、介護予防（特に健口づくりの実施）に関する参加者の声
<p>認知症を正しく理解し、地域の見守りや支え合いの大切さを意識できる地域住民が増える。</p>	<p>2 おれんじの木の継続開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行を考慮しながら2か月に1回の定期開催を目指す。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により参加者数に制限はあるが、参加したことのない地域住民や地域の関係機関へ参加を呼び掛ける。 ・認知症の初期症状や認知症の人への接し方について話題にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旗揚げ隊ミーティング開催回数 ・実施回数 ・実施内容 ・参加者数（新規再掲） ・参加者の感想 ・携わった職員数
<p>健康づくり活動に取り組まれている町に活動の場ができ、社会交流や介護予防に取り組む高齢者が増える。</p>	<p>3 健康づくり活動の新規立ち上げ</p> <p>①わが町懇談会の開催（町会、民生委員等を参集）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・'身近な場所で、みんなで健康づくり'を話題に他町会の健康づくりの取り組み（元気サロン）等を紹介する。 <p>②出前講座の開催</p> <p>テーマ：「フレイル予防について」</p> <p>③地域ケア会議の開催</p> <p>テーマ：「わたしのめざしたい姿」</p> <p>※健康づくり活動に取り組まれている地域へ提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者数 ・携わった職員数 ・参加者の声 ・新規立ち上げの有無
<p>困りごとをかかえた高齢者の早期発見や支援について、ネットワークを構築した機関と共に検討できる。</p>	<p>4 地域関係機関、地域密着型サービス事業所との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会、商店街組合等の行事や老人クラブ活動への参加 ・在宅福祉委員会の事業（ふれあい会食会、研修会）への参加 ・民児協定例会への参加 ・運営推進会議の出席 ・司法、障がい、医療分野との研修会・懇談会等の開催および参加 ・認知症サポーター養講座の開催 ・出前講座の開催 ・地域ケア会議の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク構築回数 ・ネットワーク構築機関（新規再掲） ・検討回数 ・検討内容 ・検討した機関 ・検討した機関からの相談件数

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和2年度 活動評価																													
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																												
第2層生活支援 コーディネーター 活動	<p>③元気サロンの継続支援</p> <p>1) 継続教室支援 びんびんサロン（会場：千歳町会館） (R2.12)</p> <table border="1"> <tr> <th>開催回数</th> <th>参加者（実）</th> <th>1回平均</th> </tr> <tr> <td>12回</td> <td>18人</td> <td>11人</td> </tr> </table> <p>2) 自主活動支援 地域ケア会議（令和2年9月1日 14時～15時30分）</p> <table border="1"> <tr> <th>テーマ</th> <td>これからも仲間と元気に楽しく過ごす ～コロナ禍でのサロンについて一緒に 考えてみませんか～</td> </tr> <tr> <th>参加者</th> <td>各サロンのリーダー等 10名</td> </tr> <tr> <th>会場</th> <td>ふらっとDaimon</td> </tr> <tr> <th>職員</th> <td>3名</td> </tr> </table> <p>後方支援 (R2.12)</p> <table border="1"> <tr> <th>元気サロン名</th> <th>支援回数</th> </tr> <tr> <td>元気deサロン大縄（大縄町会館）</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>元気deサロンin新川（新川町会館）</td> <td>3回</td> </tr> </table> <p>支援内容： 〔 体操の実施・助言、外部講師の調整、 今後の活動についての話し合いの開催、 体力測定の実施・結果説明、運動会の実施 健康に関する内容の周知 〕</p> <p>元気サロンの実態把握 目的： 各元気サロンの現状確認、課題抽出をし、今後の支援 を検討する。 内容： 令和3年3月12日～30日に保健師1名で自主化している 元気サロン（9グループ）に電話や訪問にて聞き取り を実施。</p> <p>④懇談会の開催（令和2年11月15日 10時～11時20分）</p> <table border="1"> <tr> <th>テーマ</th> <td>今年の私のトップニュース</td> </tr> <tr> <th>参加者</th> <td>地域住民11名</td> </tr> <tr> <th>会場</th> <td>宇賀浦町会館</td> </tr> <tr> <th>職員</th> <td>2名</td> </tr> </table>	開催回数	参加者（実）	1回平均	12回	18人	11人	テーマ	これからも仲間と元気に楽しく過ごす ～コロナ禍でのサロンについて一緒に 考えてみませんか～	参加者	各サロンのリーダー等 10名	会場	ふらっとDaimon	職員	3名	元気サロン名	支援回数	元気deサロン大縄（大縄町会館）	5回	元気deサロンin新川（新川町会館）	3回	テーマ	今年の私のトップニュース	参加者	地域住民11名	会場	宇賀浦町会館	職員	2名	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響で、人と会えず、外出を控える状況が続き、「こういう時期だから参加した」という声があった。おれんじの木を通じ新しいつながりができ、地域の支え合いの輪が広がることが大切であると旗揚げ隊と共有した。</p> <p>・今後も定期開催を目標に、感染症の流行状況を考慮しながら継続していく。</p> <p>③元気サロンの継続支援</p> <p>・びんびんサロン（千歳町）は令和3年度から自主活動として活動を継続する予定。</p> <p>・自主化している9グループは、令和3年3月末時点で全グループが休止。そのうち、5グループは令和2年度内に1度も活動できなかった。理由は会場都合が2グループ、リーダー不在が1グループ、新型コロナウイルス感染症の懸念が2グループ（うち1グループは参加者数の減少も理由の1つ）であった。令和3年3月の聞き取り時、3グループは4月から再開、1グループは市内の新型コロナウイルス感染者数が減少し次第再開予定であった。</p> <p>・元気サロンを再開したいが、使用できる会場がないことが課題である「元気deサロンin明和園」と新型コロナウイルス感染症による集まりづらさ、参加者数の減少が課題である「元気deサロンの場」が一緒に活動することで両者の活動再開を図ったが、会場の調整ができず、再開は難しいとの結論に至った。今後、両元気サロンの参加者が参加しやすい会場を検討し、再開を目指す。</p>
	開催回数	参加者（実）	1回平均																											
	12回	18人	11人																											
	テーマ	これからも仲間と元気に楽しく過ごす ～コロナ禍でのサロンについて一緒に 考えてみませんか～																												
	参加者	各サロンのリーダー等 10名																												
	会場	ふらっとDaimon																												
	職員	3名																												
	元気サロン名	支援回数																												
	元気deサロン大縄（大縄町会館）	5回																												
	元気deサロンin新川（新川町会館）	3回																												
テーマ	今年の私のトップニュース																													
参加者	地域住民11名																													
会場	宇賀浦町会館																													
職員	2名																													

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標
<p>社会参加や助け合い活動の重要性を高齢者が知ることができる。</p>	<p>5 社会参加や助け合い活動の重要性について高齢者に周知を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の関心が高い介護予防をテーマとし、社会参加や助け合い活動の重要性につながる内容とする。 ・健康づくりの必要性、取り組み方法（特にリスク該当者が多かった口腔器、運動器、転倒）について、広報紙への掲載やリーフレットを作成し、元気サロン参加者や総合相談で関わった高齢者、介護予防支援対象者へ配布する。 ・要支援認定率の高い町へ口腔器や運動器、転倒に関する出前講座の開催を提案する。 ・新たに把握した社会資源はセンター職員間で共有し、総合相談等での情報提供や介護予防ケアマネジメントにおいて活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲載回数 ・掲載内容 ・配布先 ・出前講座の提案回数および実施回数 ・出前講座の参加者数 ・参加者の声 ・携わった職員数

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和2年度 活動評価																																															
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																																														
第2層生活支援 コーディネーター 活動	<p>2 ネットワーク構築</p> <p>①地域の実態把握</p> <p>「私の住む町の高齢者は元気に暮らしていますか？」</p> <p>目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「元気に暮らす」「当たり前暮らし」に戻る、続けるために現状を把握し、地域問題（課題）を抽出する。 ・現在の地域の取り組みや工夫を共有し、今後の地域活動に役立てるための参考とする。 <p>方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年5月8日～6月26日にセンター職員が圏域内の町会（18町会）と圏域内の元気サロン（9グループ）に電話にて聞き取りを実施。 <p>聞き取り内容：</p> <p>【町会、民生委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町会行事やふれあい会食会等は中止。他町会の様子が気になる。 ・行事が実施できないため、マスク等を作成し配布した。 ・見守りの声かけは訪問を短時間にしたり電話対応にする等の工夫をした。 <p>【元気サロン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聞き取り時、すべてのサロン活動は休止していた。近日中に再開が4グループ、会場都合で休止が2グループ、新型コロナウイルス感染症を懸念し休止を続ける予定が3グループであった。 ・活動再開後の感染リスク、その責任をどのように取るか不安がある。 ・新型コロナウイルス感染症を理由に元気サロンを辞めた人がいる。 ・参加者と会えないため、リーダーから参加者一人ひとりに電話や手紙による連絡を実施した。 <p>②ネットワーク構築機関数</p> <p style="text-align: right;">(R2.12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">機関名</th> <th colspan="2">機関数</th> </tr> <tr> <th>新規</th> <th>(再)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>民生委員（方面）</td> <td>4機関</td> <td>0機関</td> </tr> <tr> <td>町会</td> <td>4機関</td> <td>0機関</td> </tr> <tr> <td>在宅福祉委員会</td> <td>0機関</td> <td>0機関</td> </tr> <tr> <td>介護保険事業所</td> <td>7機関</td> <td>0機関</td> </tr> <tr> <td>職能団体・連協</td> <td>0機関</td> <td>0機関</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5機関</td> <td>0機関</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ネットワーク構築回数</p> <p style="text-align: right;">(R2.12)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種別</th> <th colspan="2">回数</th> </tr> <tr> <th>新規</th> <th>(再)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>懇談会（開催・参加）</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>民児協定例会</td> <td>4回</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>町会行事</td> <td>0回</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>在宅ふれあい事業</td> <td>0回</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>地域密着運営推進会議</td> <td>5回</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0回</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table>	機関名	機関数		新規	(再)	民生委員（方面）	4機関	0機関	町会	4機関	0機関	在宅福祉委員会	0機関	0機関	介護保険事業所	7機関	0機関	職能団体・連協	0機関	0機関	その他	5機関	0機関	種別	回数		新規	(再)	懇談会（開催・参加）	1回	0回	民児協定例会	4回	0回	町会行事	0回	0回	在宅ふれあい事業	0回	0回	地域密着運営推進会議	5回	0回	その他	0回	0回	<p>2 ネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により町会等の行事や民児協定例会、運営推進会議等が中止になる場合が多かった。地域の状況や課題等を把握することが難しい状況となったため、電話による聞き取り調査を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症流行により活動継続について不安があることが分かり、地域ケア会議を開催した。 ・「（海沿いの地域）独居高齢者から、雨風の強い日の夜間等集まれる場所が欲しい」との声があり、地域懇談会を開催した。 ・見守り活動を継続するための工夫点等について把握し、広報紙等で他町会や関係機関に周知することができた。 ・高齢者の安否確認や支援が必要な状況に気づきづらい状況にあることが確認できた。 ・地域の課題を早期に把握、検討するために、何等かの方法で地域支援者や関係機関、サービス事業所などと連携を継続する必要がある。
	機関名		機関数																																													
		新規	(再)																																													
民生委員（方面）	4機関	0機関																																														
町会	4機関	0機関																																														
在宅福祉委員会	0機関	0機関																																														
介護保険事業所	7機関	0機関																																														
職能団体・連協	0機関	0機関																																														
その他	5機関	0機関																																														
種別	回数																																															
	新規	(再)																																														
懇談会（開催・参加）	1回	0回																																														
民児協定例会	4回	0回																																														
町会行事	0回	0回																																														
在宅ふれあい事業	0回	0回																																														
地域密着運営推進会議	5回	0回																																														
その他	0回	0回																																														

令和3年度 活動計画

活動目標	計 画	評価指標

(ア) 第2層生活支援コーディネーター業務

事業内容	令和2年度 活動評価																	
	実績（実施回数、内容、実施方法等）	活動目標に対する評価																
第2層生活支援 コーディネーター 活動	<p>④地域課題の検討を行う地域ケア会議でのネットワーク構築</p> <p>松風町会、若松町会、千歳町会、新川町会、上新川町会、大縄町会、堀川町会、金堀町会、元気deサロン松濤、わかまつサロン、びんびんサロン、元気deサロンin新川、元気deサロンin上新川、元気deサロン大縄、元気deサロンin明和園、元気deサロン金堀広野、在宅歯科医療連携室、特別養護老人ホーム俱有、日乃出町会、日乃出町民生委員、日乃出町在宅福祉委員、居宅介護支援事業所あんじゅう、小規模多機能型居宅介護事業所あんじゅう日の出、住宅型有料老人ホームピュアパレス啄木、就労継続支援B型事業所工房虹と夢</p> <p>⑤出前講座でのネットワーク構築 〔堀川町会、函館人権擁護委員協議会函館地区部会〕</p> <p>3 地域の支え合いや介護予防にかかる広報・啓発 (回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H30</th> <th>R1.12</th> <th>R2.12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>介護予防</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>地域の見守り</td> <td>11</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>社会資源</td> <td>14</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>出前講座・講師派遣の依頼機関 〔松川町在宅福祉委員会（2回）、堀川町会〕</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響から、高齢者に異変があっても家族や地域が気づきづらい状況にあることをリーフレット「見守り大切ですね」（地域包括支援センター連絡協議会保健師部会作成）の配布により地域に周知を図った。</p>		H30	R1.12	R2.12	介護予防	24	11	3	地域の見守り	11	4	2	社会資源	14	4	1	<p>【活動目標】 既存の地域支え合い活動や介護予防活動等の状況を把握し、地域や相談者へ周知することで、自らの活動に活かすことができる。</p> <p>【評価】 ・新型コロナウイルス感染症の影響がある中での見守り活動やサロン活動等の実施状況や工夫点等について広報紙、リーフレットに掲載し周知を図った。町会、民児協、元気サロン等は、参考にし、活動を継続した。</p>
	H30	R1.12	R2.12															
介護予防	24	11	3															
地域の見守り	11	4	2															
社会資源	14	4	1															

令和3年度 活動計画		
活動目標	計 画	評価指標

ウ 認知症総合支援事業

令和2年度 認知症支援推進員 活動報告書（認知症の取組）

地域包括支援センター名：こん中央

【函館市地域包括支援センター運営事業業務処理要領抜粋】

オ 認知症総合支援事業

(4) 認知症地域支援・ケア向上推進事業

- a 認知症の人に、状態に応じた適切なサービスが提供されるよう、認知症疾患医療センターを含む医療機関や介護サービス事業者、認知症サポーター等地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図るための取組
- b 認知症の人とその家族を支援する相談支援や、支援体制を構築するための取組
- c 認知症カフェや介護教室等、認知症の人の家族に対する支援事業の実施
- d 認知症ケアに携わる多職種協働のための研修事業の実施

【令和2年度の取組】

- 認知症に関する相談対応件数 … 104件 内、権利擁護ケース 実数 22件 延べ件数 76件
- 1 認知症初期集中支援チームとしての活動 (a)
7月29日（水）認知症初期集中支援チーム 活動報告会 協力
 - 2 認知症サポーター養成講座の開催 (a)
10月2日（金）11時～12時30分 / 株式会社マルベリーさわやかセンター函館 10名に実施
3月29日（月）18時～20時 / 合同会社ライトスタッフ トート相談薬局 5名に実施
 - 3 認知症地域支援推進員連絡会参加 (a)
第1回認知症地域支援推進員連絡会議参加 6月16日（火）15時30分～17時 総合保健センター作業活動室
認知症地域支援推進員打ち合わせ会参加 9月11日（金）10時～12時 総合保健センター作業活動室
第2回認知症地域支援推進員連絡会議参加 10月15日（木）10時～12時 総合保健センター作業活動室
第3回認知症地域支援推進員連絡会議参加 1月21日（木）10時～12時 総合保健センター作業活動室
函館市認知症カフェ認証事業説明会参加 8月24日（月）総合保健センター作業活動室
 - 4 認知症ケアパス普及に関して (b)
7月7日（火）19時～19時15分 / 第5方面民生児童委員連絡協議会 22名
7月8日（水）13時20分～13時30分 / 第8方面民生児童委員連絡協議会 21名
7月8日（水）19時～19時15分 / 第9方面民生児童委員連絡協議会 23名
7月10日（金）19時～19時15分 / 第4方面民生児童委員連絡協議会 18名
実施内容：認知症ガイドおよびケアパス、広報紙の配布 認知症ケアパスの出前講座の周知
介護予防、認知症に関するリーフレットの配布と10～15分の口頭説明を行った。
その他配布先：医療機関（11）、調剤薬局（12）、郵便局、銀行（7）、青年センター、ふらっとDaimon、
消費生活センター、浴場施設、スーパー、ドラッグストア、コンビニ（手渡し、口頭説明実施）
 - 5 認知症カフェの開催 (c)
(1) おれんじの木
11月11日（水）13時30分～15時 / ふらっとDaimon 参加者…10名
・主催…おれんじの木旗揚げ隊（地域住民、障害相談支援事業所、居宅介護支援事業所、介護施設、介護サービス事業所）
・講話…講師：旭ヶ岡の家介護老人福祉施設 生活相談員 南部雄一氏 テーマ：「終活」
・インタビュー形式のやり取り
・カフェタイム（感染防止に配慮し、飲食なし）…1グループ4～5名で実施
3月24日（水）13時30分～15時 / ふらっとDaimon 参加者…11名
・主催…おれんじの木旗揚げ隊
・講話…講師：有限会社 小田桐葬儀社 小田桐弘晃氏 テーマ：「葬儀」
・カフェタイム（感染防止に配慮し飲食なし）…1グループ4～5名で実施
 - 6 多職種研修開催の企画・準備 (d)
函館市認知症カフェ企画運営研修会 打ち合わせ会議 2回
新型コロナウイルス感染症防止対策のため、開催は中止。次年度に開催順延とした。

【令和3年度の取組予定】

- 1 認知症初期集中支援チームとしての活動 (a)
 - ・早期の対応・連携を目指す。
- 2 認知症サポーター養成講座の開催 (a)
 - ・民間企業、町会、一般市民、医療機関、学校等を対象に開催する。
 - ・認知症の初期症状や接し方に重点をおいた内容とする。(早期に異変に気づき、早期支援につながることで、認知症の人が安心して在宅生活を続けられることが理解できる。)
 - ・これまでに講座を開催した機関を対象として、講座での学びを活かすことができているか等、モニタリングを実施。
- 3 認知症地域支援推進員連絡会参加 (a)
- 4 認知症ケアパス普及に関して (a)
 - ・認知症ガイドブックの普及と活用 配布したことのない事業所等新たな配布先の開拓。
 - ・広報紙による情報発信。ケアパスの一部を資料とし抜粋した内容のリーフレットを作成し配布。
- 5 認知症カフェの開催 (c)
 - ・「おれんじの木」2か月に1回の開催を目指す。講話 パネルディスカッション カフェタイムを設ける。
 - ・「おれんじの木」定例ミーティングの開催。メンバーは旗上げ隊の他、いずれは地域の自主活動として定例開催することができるよう、地域のボランティアや地域住民、介護サービス事業所等主力となって活動できるメンバー増加を目指す。
- 6 多職種研修開催の企画および準備への参加 (a、b)
 - ・認知症支援推進連絡会で実施する「函館市認知症カフェ企画運営研修会」「アルツハイマーデイ」の企画および準備への参加
- 7 認知症支援推進員研修および認知症に関する研修への参加 (その他)
- 8 本人・家族支援 (a、b、c)
 - (1) 総合相談支援
 - (2) 権利擁護としての支援
 - (3) 認知症初期集中支援事業の活用
 - (4) 地域ケア会議の開催

【令和2年度の取組】

7 研修会参加（その他）

10月20日 認知症初期集中支援チーム員研修 2名参加

12月4日 NPO法人ケアマネージャーネットワーク函館（オンライン研修）

「ケアマネージャーとして知っておくべき認知症の特徴」～4大認知症の理解 4名参加

1月27日 認知症介護研修 研修東京センター（オンライン研修）第4回すいしんいんセッション 2名参加

6月27日・8月25日・9月25日 男性家族介護者の集い 3回 各1名参加

8 個別ケア会議開催のうち認知症に関わるケース（b）

4月24日 「火の始末の心配なく在宅生活を続けるために」 3名

5月11日 「S様が穏やかな生活を送るために」 7名

11月24日 「Kさんが夫と仲良く穏やかに過ごせるために」 3名

12月21日 「Kさんが穏やかに過ごすために」 4名

12月4日 NPO法人ケアマネージャーネットワーク函館（オンライン研修）

【令和3年度の取組予定】